

アントレプレナー教育本格化

経営学部ビジネスデザイン学科

ビジネスデザインとは、新 たな事業やサービス、組織な



ビジネスを創造する思考法を解説する見山特任教授=10月4日

り設計したり(デザイン)す るということの意味する。ビ ジネス創造について体系的集 中の学び、起業家的な精神 と資質・能力を育むアントレ プレナー(起業家)教育を本 格的に行う。

今年度後期から経営学 科で、ビジネスデザイン学科 の講義に近い取り組みがしま った。見山謙一郎特任教授の ベンチャー創造・事業継承特 講と三宅秀道准教授のベンチ ャー・ビジネス論の合同授 業。株式会社「東京ドーム」 の協力で、同社で扱う新商品 や新企画の提案を学生が行 う。

10月4日、生田キャンパス の教室に、2〜4年次の受講 生50人が集まった。東京ドー ムから社員7人が訪れ、総合 レジャー産業としての役割や 業務内容を学生に説明した。 次の授業からは、それぞれの

クラスで5人程度のグルー プを作り、企画を立て始めた。 学内予選を経て、来年早々に 企業側にプレゼンテーション する予定だ。

見山特任教授は「新しいプ ロジェクトの構想に際し、一 番重要なのは、真っ先に浮か ぶ企業のイメージを取り払っ て考えること。引き算をして 何が残るかを深く考えること でイマジネーションが広がっ ていく」と解説し、2年次生 の女子学生は「自分のアイデ アが実際に生かされるかもし れないと思うとワクワクす る。お客さんを楽しませるよ うなアイデアを考えたい」と 声を弾ませた。

個人やゼミナールでビジネ スプランコンテストへの参加 は多いが、企業の全面協力に よる授業での取り組みは珍し い。三宅准教授は「実践的な 授業の第一歩。学生からどん なプランが出てくるか楽し み」と語る。

馬場 杉夫教授 (ビジネスデザイン基礎演習担当予定)



新しいことに取り組む人材 実身に身につけていく。 || アントレプレナーを社会は 強く求めている。だが、その 機会や経験を積む場は 多くはない。ビジネス デザイン学科では理論 と実践のサイクルにより、ビ ジネスの実行力・創造力を着

創造する喜び感じて

演習「ビジネス研究BD」。 基礎演習では、過去の事例を 学び、さらに何かを作り出す

ことにチャレンジする。ビジ ネス研究BDは、産学官連携 で、ビジネスアイデアを実現 可能なプランに高める。結果 を外部に発表するなど、学内

で収まらないプロジェクトを 目指す。ベンチャー・ビジネ スの講義もあり、実際に起業 したい学生への支援体制を核 心として、自らの役割をし

討している。 新学科では、実践を自己満 足で終わらせることなく、専 門的な理論の理解で補完し、 自らの知見として蓄えていけ るような取り組みを目指す。 どんな小さな一歩でも、ま

ずやってみることが大事。う まくいかない部分もたくさん あるだろうが、失敗から学ぶ ことは多い。大変だけれど、 できないことではないと、 ビジネスデザイン学科の 学びを通じて気づくたろ う。そして社会に出て、

何かを生み出す機会に恵まれ たときには、自らの役割をし っかり担うことができるよう になっていくだろう。ワクワク ドキドキしながら、新しい ものを作り出す喜びを感じる ことができれば、学生はハッ ピーな人生を送れると思う。

2019年度新学科開設

新たな知の扉を開けよう

新しいビジネスを創造する力を養う経営学部ビジネス デザイン学科。情報のスペシャリストを目指す文学部ジ ャーナリズム学科。両学科とも実践力を鍛え、独創的な 授業やゼミナール活動を予定している。2019年4月から スタートする新学科の学びの扉を少し開けてみよう――。

現場での経験が学びを深める

文学部ジャーナリズム学科

現在の人文・ジャーナリ ズム学科から生まれ変わる ジャーナリズム学科。「ジャ

ーナリズム」情報文化ア ーカイブ」メディアアプロデュ ース」スポーツインテリジ エンス」の四つ を学びの柱とし て、徹底した少 人数教育・現場 教育を行う。

2年次生の藤 野華蓮さんは山 田健太ゼミに所 属する。同ゼミ は今夏、恒例の 被災地合宿を岩 手・宮城両県で 行った。「青森 県出身なので 東日本大震災関 連のニュースな どはよく見てお り、知っている つもりだったけ れど自分の目で 見るとまったく

違っていた」と藤野さん。学 科での学びを通じて、首都圏 と地方との報道の違いを学ん だ。「地方の出来事をどのよ うに発信していけばいいの か、考えていきたい」

藤野さんは選択必修科目の 沖繩ジャーナリズム論で9月 には沖繩県に飛んだ。基地問 題、知事選や歴史など、多く のことを見聞きし、考えた。 同ゼミの星七海さん(2年 次)は8月、岡山県のテレビ 局でインターンシップを行っ た。台風が接近し、担当した ラジオ番組ではリアルタイム で情報を伝え続けた。豪雨災 害から1カ月の時期でもあ り、災害を伝えるドキュメン タリー番組の編集も間近に見 ることができた。

星さんは「授業やゼミで現 場に向いての経験や、第一 線で活躍している先生や講師

の方々の話に触れることで世 界が広がる。あと2年半でも つと深く学びたい」と話す。

公認スポーツ指導者へ道 分野では、スポーツと情報を つなぐための人材を育成す る。

その一環として、「スポー ツ情報戦略」「コーチング 論」など特定科目を履修し単 位を修得することで、日本ス ポーツ協会の「公認スポーツ 指導者」の基礎資格を申請す ることができ、さらに上位の 資格取得の際に必要な講習・ 試験の一部またはすべてが免 除される。指導者を目指すの はもちろん、五輪ボランティア、スポーツメディアの分野 などでも生かすことができる。

平田大輔教授(スポーツ心 理学)は「科学的な知識によ りスポーツへの理解を深め る。キャリア形成を視野に入 れ、学んでほしい」と話す。

藤森 研教授 (ジャーナリズム論担当予定)



実践的なジャーナリズム教 育。これがジャーナリズム学 科の基礎となる。

本学ならではの講座 として、全国紙、地方 紙、日本ペンクラブ、

日本写真家協会などから毎回 ゲストスピーカーを招く協力

異種融合の実践の場

講座がある。これまでも実施 してきたが新学科では新た に、映像(IT企業)やメデ

基本となる。アーカイブで は、講談社から寄贈された貴 重な資料「現代人物アーカイ

「実践」「現場重視」はジャ ーナリズム以外の科目でも

野を横断的に選択することが できる。ジャーナリズムはそ もそも多様性のある分野で、 本学ジャーナリズム学科はま さに「異種融合」の場にな

る。新聞・テレビからネッ トへ、媒体は変わってもジャ ーナリズムの精神は普遍的だ。正確な情報を集め、管理 し、精選して伝えるといった ジャーナリストの本質をもっ た人間を育てたい。それはど んな仕事に就いても、求めら れる能力となる。

岩手県山田町役場で専修大OBの職員から 復興状況を聞くゼミ生=9月11日

